

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組
笑顔の絶えない活動	無理をしないボランティア活動	高齢者	高齢者の孤立防止と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者に対してどう対処すればいいのかわからない 認知症高齢者の情報共有は難しい 家族がいても、昼間は一人の高齢者が多い 気軽に声かけできず、近所付き合いがない 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者のサポート方法についての勉強会 高齢者にもできること、やってみたいことを提案し仲間づくりをする 気軽に集える場所、悩みを話し合える場所（サロン等）を維持、サロン開催場所のマップを作成 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症高齢者のサポート方法についての勉強会や、家族の悩みを話し合える場として、認知症カフェ（たぁ〜だ集まる会）の活動を継続する
			高齢者の体力維持と健康問題	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者と言っても、年齢を重ねるごとに取り巻く環境・身体状況の変化があり、問題が異なる 高齢者の方が高齢であるということの自覚がない 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者に対する相談場所、周囲が協力できる環境作り 高齢者が楽しめる場所を作る、引きこもる状況をつくらない 運動の習慣付け、百歳体操、ウォーキング等 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢になっても出来ること、楽しめる場を通じた仲間づくりを推進（ふれあいサロン活動、百歳体操、ウォーキング教室等）
		障がい児・者	障がい児・者に対する理解	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者への対処方法が分からず困ったことがある 住民の無関心、お互いに負担にならない強い関心が必要 情報が少なく、交流もないため把握が出来ない 	<ul style="list-style-type: none"> ヘルプカードの活用（小学生からの周知） 定期的に見守り、相談にのってくれる方がいれば安心 町内における情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して集える場所、情報交換が出来る場を通して、顔の見える関係をつくる（こども・地域食堂）
			障がい児・者の孤立防止と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 家族で抱え込んで表に出にくい 助けたいが個人情報保護が邪魔している、正しい知識と理解がなければ地域での情報共有は危険なのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 安心して集える場所、交流の場づくり 地域で情報交換できる活動やイベントの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児・者との接し方（ヘルプカードの活用等）について学ぶ機会をつくる
		子ども・子育て	子ども、子育て家庭の見守り	<ul style="list-style-type: none"> 交流できる場所と気軽に話せる関係が必要 ひとり親世帯や共働き家庭の増加により、子ども達のみで過ごす時間が増加している 社会人としてのマナーやルールが守れない、挨拶が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世帯が、子育てを卒業した世代や高齢者世帯の方と交流し、お互いに顔を覚える機会をつくる 子どもが遊べる場所・集える場所づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世帯が、子育てを卒業した世代や高齢者世帯の方と交流できる場づくりを検討する（どんどこや等）
			子どもの人権（いじめ、不登校、虐待、引きこもり）	<ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校、引きこもり児童のケア（早期解決） どのような支援を欲しておられるのかわからない いじめや虐待を、どこに連絡すればいいかわからない 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の相談所や相談センターがあればよい 異変を感じた時に連絡できるしくみ（LINEやSNSの活用） プチクラブ（未就学児の会）への支援 校区子ども会を設置したい 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会等と協力し、地域の「ながら見守り」を継続する
		災害・防災	平常時における災害の備えと避難支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 高齢になると避難するにも億劫、動物がいると躊躇する 避難したくても出来ない人への気遣いもしてほしい 要援護者について、町内で話し合ったことがない 	<ul style="list-style-type: none"> 災害に備えた名簿の作成（LINEやSNSの活用） 町内で要援護者を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時要援護者避難支援制度を活用し、町内で要援護者を把握する 校区防災連絡会と連携し、災害に関する講習会を継続する
			防災に対する地域住民の意識づけ	<ul style="list-style-type: none"> 水害の時、どこに避難するのがよいかわからない 避難訓練に参加する方が少ない、切実感がない ハザードマップをよく分かっていない人が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練（避難場所、避難経路の確認、マップ作成） 災害に関する講習会 情報発信による住民の意識づけ 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会等と連携した避難訓練を継続する（避難場所や避難経路の確認）
		その他	地域役員の担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> 地域役員の高齢化、後任を見つける大変さ 共働き世帯が増え、地域活動に関わる意識が育たない 若い世代、男性高齢者の地域行事への参加が少ない 近所付き合いが煩わしいという方もいる 	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代が参加しやすいような環境作り（ボランティア証明書の発行） ボランティアの協力を募る 昼間の集まりばかりではなく、ライフスタイルに応じた参加の仕組みづくり リーダーシップを発揮できる人材の発掘 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の保護者の方との繋がりをつくることにより、地域活動への協力を得る 活動内容に応じて、学生から大人までボランティアの協力を募る